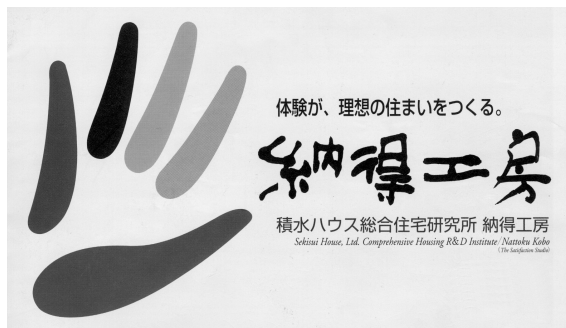


「積水ハウス総合住宅研究所 納得工房」
見学セミナー

■日時 2001年10月27日 (土)

教育研究部会 (関西)



10月27日 積水ハウス総合住宅研究所 納得工房の見学セミナーが行われた。(参加者は21名、内賛助会員5名)納得工房は、関西学術研究都市の協同組合ハイタッチ・リサーチパークの中にあり 積水ハウスの30周年事業として1990年に開設された。4700m²あり、11年間で約35万人が訪れている。その内40%の人が、これから家を建てる計画のある人々。残りは、勉強のためやインテリアコーディネーターあるいは、同業者も含まれ来場している。ここでは、一般の住宅展示場のような視覚情報だけでなく、いろいろな空間で実際に手で触れたり、からだで感じたりして五感をフル活用して比較体験できる施設である。さまざまなテーマから住まいのこれからのあり方が体験できる。私にとって特に勉強できたのが、バリアフリーからユニバーサルデザインへの考え方である。障害者や老化によって必要になるものでなく、だれにとっても快適な空間こそが原点であって特別な事ではないと言う事である。大変参考になり、再度訪問してみたいと思った。

セミナーは、納得工房部長 高城亮一氏を講師として、『人にやさしい住まいとは』をテーマに話がすすんでいった。バリアフリーの考え方は、今はユニバーサルデザインの考え方に変わってきている。障害のある人、高齢者のためのデザインという発想ではなく、全ての人が使いやすいものは、高齢者も使いやすいというのが基本的な考え方。段差をなくすのではなく、最初から段差をつくらない。この考え方の基に、住宅のどの部分をどの様に改善してきたのか、個々の説明があった。浴室、キッチン、トイレ、押し入れ、等々。これらは、5年前からのアンケートによる生活データのストックが活かされ、かたちになったもので、アンケート調査をとる時には、御苦労も多かったとか。懇親会に入り、活発に質疑応答や意見交換がなされていった。家族構成の変化によって、住宅の変更ができる住宅の汎用性。身体の障害だけでなく知的な障害を持つ人に対応する住宅は。グループホームやコーポラティブハウス。コスト面の問題や住宅の中でユニバーサルの進んでいる所はどこか。クロスは塩ビを使わず、自然素材、布、和紙クロスなど自然のものを取り入れる方向になっている。世界レベルでいうと、日本は生活スタイルが変わっていて、個人差も大きいので、調査・研究が重要になっている話など。もっと色んな話が聞きたかったが、残念ながら時間切れとなりました。今回のセミナーは、自分事として捉えたいと思ったし、体験した参加者もみんなそう思ったことであろう。

(レポート 森田 和美 神沢 郁子)

見学参加者

田中 美里 (株)サンゲツ	牧野 久美代 空間創造企画プロテ
吉富 幹子 東リ(株)	池端 禎三 Tei
竹富 裕佳子 東リ(株)	森田 和美 Limeade
西村 幸枝 東リ(株)	岡本 正大 (株)スタッフ
東郷 清次郎 ルノン(株)	藤田 吉之 繊維総合研究所
野々口 悟 (株)川島織物	山本 竜一 アトリエ・リュウ
橘 喬子 夙川学院短期大学	宮武 京子 ループ ノート
田村 尚 VISp.d.o	山内 紀子
寺井 洋介 ユニチカファイバー(株)	松井 武雄 (株)DP.MAX
近沢 晴雄 PLANNING.C3	大手 裕子 成安造形短期大学
神沢 郁子 K.PLANNING	